



マガン（30羽）の初飛来が9月16日に確認されました。
 平年（20日飛来）より4日早く、昨年（12日）より4日遅い飛来
 でした。

Vol.136

令和3年度10月号

夏のオオクチバス駆除



この日最大は
54cmでした。

ハスやヒシが水面を覆う伊豆沼・内沼は夏季に酸欠状態になるため、酸欠に弱いオオクチバスは河川の流入口に集まります。9月に電気ショッカーボートによる駆除を試したところ、2日間で成魚10個体、幼魚95個体が捕獲できました。これは繁殖期（5～6月）の10日間に捕獲された成魚14個体、幼魚31個体と比較しても十分な数であり、今後の有効な駆除手法になりそうです。

ロボットボートによるヒシ刈り

伊豆沼・内沼のハスを管理するために、環境省の研究委託を受け2016年から3年間にわたる、東京大学の海津裕先生との共同研究の末、ハス刈りロボットボートを開発しました。このボートはヒシ刈りにも応用できます。沼のハスのない部分にはヒシが繁茂して水面を覆うため、水中の酸素不足を引き起こしたり、沈水植物の生育を阻害します。今年は、刈払うためのカッターをさらに増設。人海戦術で行うと途方もない労力がかかるヒシ刈り、9月上旬に実施した今回は、2時間半で2000㎡のヒシ群落を刈払うなど、効率的な植生管理へ向けた研究が進んでいます。



— 自然体験講座参加者募集 (10月1日より開始) —

ガンの飛び立ち観察会 & コクガン観察会ツアー

伊豆沼で朝のマガンの飛び立ちを見た後に南三陸町志津川湾でコクガンを見るツアーです。



----- 開催日 -----
 第2回 11/7 (日) 5:30~12:00
 第3回 11/27 (土) 5:30~12:00
 第4回 12/19 (日) 6:00~12:30
 第5回 1/8 (土) 6:00~12:30

対象は小学生以上 (小学生は保護者同伴)。定員は各回20人申込先着順。
 参加費 (当日徴収) 1人2,000円 (朝食・資料・保険代)。持ち物は履きなれた靴あるいは長靴、防寒着、マスク。
 集合場所は宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター (鳥館)。観察場所まで無料送迎します。

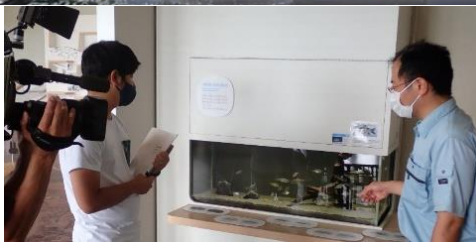
◆お申し込み方法等の詳細は、サンクチュアリセンター館内の申込用紙、またはホームページを確認願います。

注意：新型コロナウイルス感染防止対策のため、体験講座を中止する場合があります。

— 「奇跡の沼」がミヤギテレビで放送されました! —



ミヤギテレビ特別報道番組「奇跡の沼～伊豆沼・外来魚駆除の17年～」が9月19日に放送されました。ブラックバスにより深刻な影響を受けた沼で、希少魚であるゼニタナゴの復活という奇跡までの道のりを紹介した番組でした。たくさんの方々が沼の環境保全に関してきた中、フナやライギョ、ゼニタナゴなどの貴重な水中映像や元漁師の貴重なインタビューなどを盛り込んだ素敵な作品にして頂いたことに感謝します。今回放送された成果は「生物多様性の劣化」、「エコトーンの消失」、「水質汚濁と浅底化」など、50年かけて壊れてしまった沼の生態系をバスバスターズ始め、皆様方の協力により十数年かけて1歩取り戻したに過ぎません。これからも活動を続け、多様な生きものと人が集う水辺づくりに努めたいと思います。



取材風景です。

— 生き物図鑑 ～秋の七草～ —

秋の七草は、秋の野山を代表する草花を7種選んだものです。奈良時代の歌人である山上憶良が歌に詠んだことで広まりました。

古来より人々に親しまれてきた秋の七草ですが、その自生地である里山の荒廃とともに数を減らしており、キキョウやオミナエシ、カワラナデシコは絶滅が危惧されています。

伊豆沼・内沼の流域には、秋の七草が比較的多く残存しており、特に毎年野焼きを行う堤防はサワヒヨドリを含む7種が自生する大変貴重な湿地となっています。



オミナエシ



クズ



キキョウ



ハギ



ススキ



サワヒヨドリ(フジバカマ近縁種)



カワラナデシコ



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
 指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
 ホームページ:<http://izunuma.org/>
 E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

